

2013年3月期第3四半期業績概況

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

【連結業績サマリー】主力事業が好調に推移し増収増益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	488	31	7%	1,394	67	5%	1,850	108	6%	1,850	-
水産	193	-4	-2%	506	-17	-3%	645	-12	-2%	645	-
畜産	210	5	3%	576	-4	-1%	745	-11	-1%	745	-
低温物流	409	17	4%	1,191	50	4%	1,540	45	3%	1,540	-
不動産	12	0	3%	35	-2	-7%	48	-1	-3%	48	-
その他	15	-0	-1%	42	-1	-3%	61	1	1%	61	-
調整額	-51	1	-	-152	9	-	-209	1	-	-209	-
売上高合計	1,275	51	4%	3,591	101	3%	4,680	131	3%	4,680	-
加工食品	22	5	32%	52	10	24%	60	8	16%	60	-
水産	3	2	110%	2	-4	-69%	0	-2	-	0	-
畜産	3	0	3%	5	-1	-14%	7	2	33%	7	-
低温物流	31	5	19%	72	10	16%	79	5	7%	79	-
不動産	6	0	1%	17	-1	-5%	22	-2	-7%	22	-
その他	1	-0	-9%	2	-0	-15%	4	-1	-17%	4	-
調整額	1	0	-	-0	-1	-	-2	-2	-	-2	-
営業利益合計	66	12	23%	151	14	10%	170	8	5%	170	-
経常利益	62	11	21%	145	15	12%	163	10	7%	163	-
当期純利益	23	-8	-27%	86	13	17%	92	13	16%	113	-21

(注)見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年11月6日に発表した見込

ROE	7.7%	0.9%		9.4%	-1.7%
EPS	31円	5円	18%	38円	-7円

- 1.売上高は主力の加工食品と低温物流が引き続き伸長し増収
- 2.営業利益は好調な加工食品と低温物流に加え、水産の利益率が改善し増益
- 3.通期見込は固定資産の減損により、当期純利益のみ下方修正

※当資料では別途断り書きがある場合を除き、第3四半期単独のコメントを記載

【加工食品】内食・中食化傾向が継続し、調理冷凍食品は好調を維持

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期			第3四半期(累計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減	
加工食品	売上高計	488	31	7%	1,394	67	5%	1,850	108	6%	1,850	-
	家庭用調理品	141	10	8%	404	15	4%	540	19	4%	540	-
	業務用調理品	232	9	4%	642	21	3%	841	30	4%	841	-
	健康価値	8	-2	-23%	33	-7	-16%	47	-3	-6%	47	-
	その他	107	15	16%	314	38	14%	422	62	17%	422	-
	営業利益	22	5	32%	52	10	24%	60	8	16%	60	-

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年11月6日に発表した見込

家庭用を中心に調理冷凍食品が大きく伸長。営業利益は増収効果や生産性改善などが寄与し増益

- 1.家庭用調理品： 米飯類、チキン加工品が好調に推移。TV番組での露出増加も寄与
- 2.業務用調理品： チキン加工品は低採算商品カットの影響で増収幅は縮小したが、春巻・コロッケなどの取扱が順調に推移
- 3.その他： 北米事業買収効果などが寄与

■主要施策の進捗・新たな課題への打ち手

- 1.GFPTニチレイでは日本向けムネ肉・手羽加工品の生産を開始(春の新商品)。スローターラインでは12月に収益性改善の一環として省人化に向けた設備を導入
- 2.足元の急激な円安の影響が来期より本格化。コスト吸収・転嫁策を引き続き検討

【水産・畜産】水産は通期で黒字確保へ、畜産は計画通り進捗

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	193	-4	-2%	506	-17	-3%	645	-12	-2%	645	-
	営業利益	3	2	110%	2	-4	-69%	0	-2	-	0	-
畜産	売上高	210	5	3%	576	-4	-1%	745	-11	-1%	745	-
	営業利益	3	0	3%	5	-1	-14%	7	2	33%	7	-

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年11月6日に発表した見込

【水産】

1. 魚卵や貝類の販売は伸長したが、北方凍魚の取扱減少が響き減収
2. 上期の高値在庫入替による利益率改善に加え、下期から鮭・貝類の販売価格も好転

【畜産】

1. 上期から好調なポークに加え、セシウム問題の懸念が薄らいだ国産ビーフの取扱が伸長し増収
2. 収益性が低下した国産チキンと輸入ビーフを、調達が安定し低位ながらも利益を確保した輸入チキンがカバーし、営業利益は前年並みを維持

【低温物流】国内は好調に推移、海外はユーロ安の影響を受ける

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

		第3四半期			第3四半期(累計)			通期				
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率		増減	率		増減	率	前回見込	増減
低温物流	売上高計	409	17	4%	1,191	50	4%	1,540	45	3%	1,540	-
	物流ネットワーク	231	13	6%	675	45	7%	876	43	5%	876	-
	地域保管	126	3	3%	366	10	3%	467	8	2%	467	-
	海外	45	-4	-8%	138	-6	-4%	178	-10	-6%	178	-
	その他・共通	7	4	114%	11	1	13%	19	4	29%	19	-
	営業利益計	31	5	19%	72	10	16%	79	5	7%	79	-
	物流ネットワーク	12	3	26%	32	9	42%	35	6	19%	35	-
	地域保管	18	2	15%	41	4	10%	44	3	7%	44	-
	海外	1	-1	-52%	5	-3	-39%	6	-3	-35%	6	-
	その他・共通	-0	1	-	-5	0	-	-6	-0	-	-6	-

注：見込は今回発表した見込で、前回見込は2012年11月6日に発表した見込

好調な国内業績が全体を牽引。電力料値上げや庫腹逼迫等、コストアップ要因を効率運営により吸収

- 1.物流ネットワーク:TCの新設効果、業務改善が引き続き寄与し増収増益
- 2.地域保管: 年末商材の着実な取込などが寄与し増収増益
- 3.海外:
 - ①新たな運送需要の取込やポーランドでの昨年度の新規受託効果もあり、現地通貨ベースでは増収
 - ②ユーロ安(現地7~9月)に加え、燃油などのコスト増が響き減益

■主要施策の進捗状況・新たな課題への打ち手

- 1.東京・大阪圏・・・庫腹逼迫が続く中、拠点の新設、再保管の有効活用などで競合他社に先んじた積極的な集荷を進める
- 2.国内での相次ぐ電力料の値上げに対し、料金改定要請も含め更なるコスト吸収策を推進

【連結バランスシートの変動要因】

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	12/12	12/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,306	1,154	151	①
固定資産	1,684	1,750	△66	②
資産の部合計	2,990	2,905	84	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	1,036	841	195	③
固定負債	710	876	△165	③
負債の部合計	1,747	1,718	29	
純資産の部	1,242	1,187	55	
(うち株主資本)	1,222	1,165	56	
有利子負債	989	978	10	④
(うちリース債務除く)	768	748	19	
科目	12/12	11/12	増減	
設備投資額	89	77	11	
(うちリース資産除く)	68	61	7	
減価償却費	106	111	△5	
(うちリース資産除く)	77	83	△5	

【主な増減要因】

- ① 売上債権+144(売上の増加や年末需要による季節的要因)
現金及び預金+24(手元流動性の確保)
- ② 有形固定資産△54(減損損失の計上など)
- ③ 一年以内長期借入金の振替
(長期△140、短期+140)
- ④ 有利子負債+10(営業資金の増加など)

【営業外収支・特別損益の変動要因】

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第3四半期(累計)			通期				
		12/12	11/12	増減	見込	12/3	増減		
【営業外収支】		-6	-7	+1	【営業外収支】		-7	-9	+2
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-5	-5	-0	金融収支		-10	-8	-2
【特別損益】		-26	-6	-20	【特別損益】		-29	-10	-19
(主要項目)					(主要項目)				
投資有価証券売却益		10	1	+9	投資有価証券売却益		10	1	+9
固定資産売却益		4	7	-3	固定資産売却益		4	7	-3
事業譲渡益		1	-	+1	事業譲渡益		1	-	+1
災害損失引当金 戻入額		-	1	-1	災害損失引当金 戻入額		-	4	-4
災害による損失		-	-3	+3	災害による損失		-	-3	+3
投資有価証券評 価損		-	-8	+8	投資有価証券評 価損		-	-6	+6
固定資産除却損		-2	-2	-0	固定資産除却損		-4	-5	+1
減損損失	①	-40	-1	-39	減損損失	①	-40	-5	-35

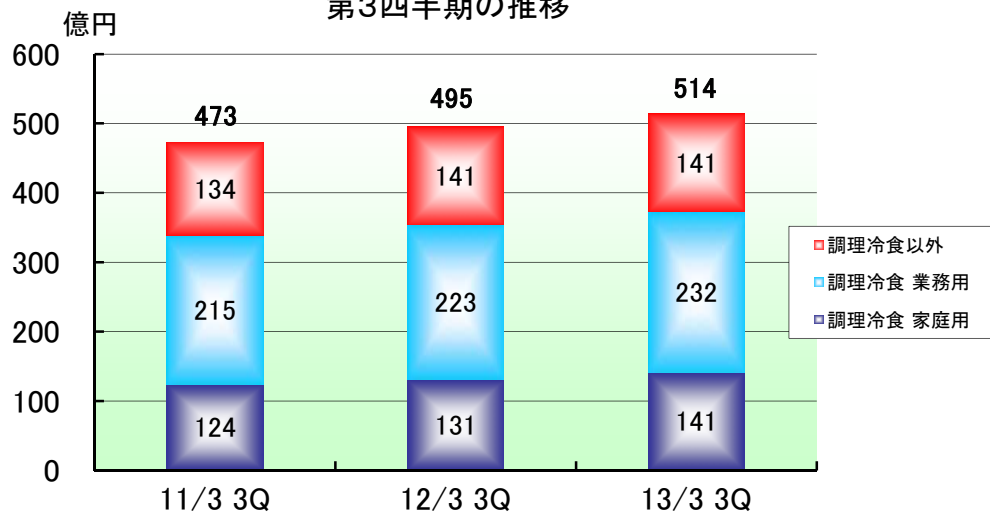
① GFPTニチレイの固定資産の減損

【参考データ①】

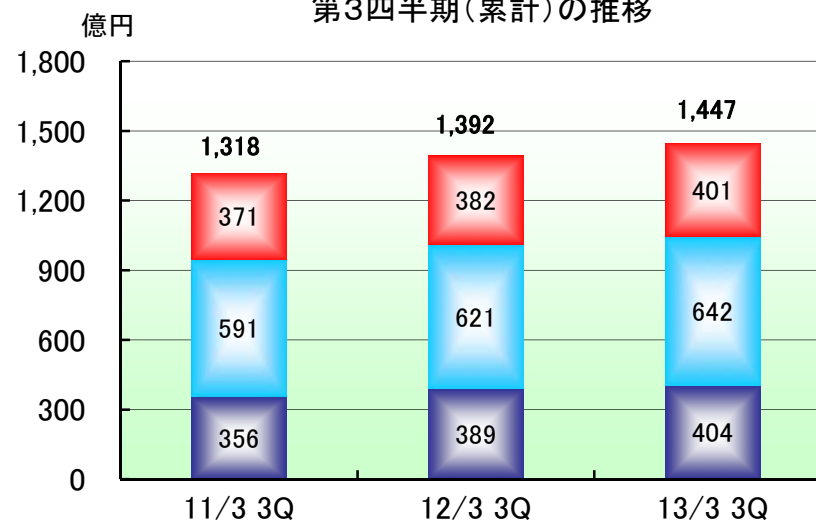
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

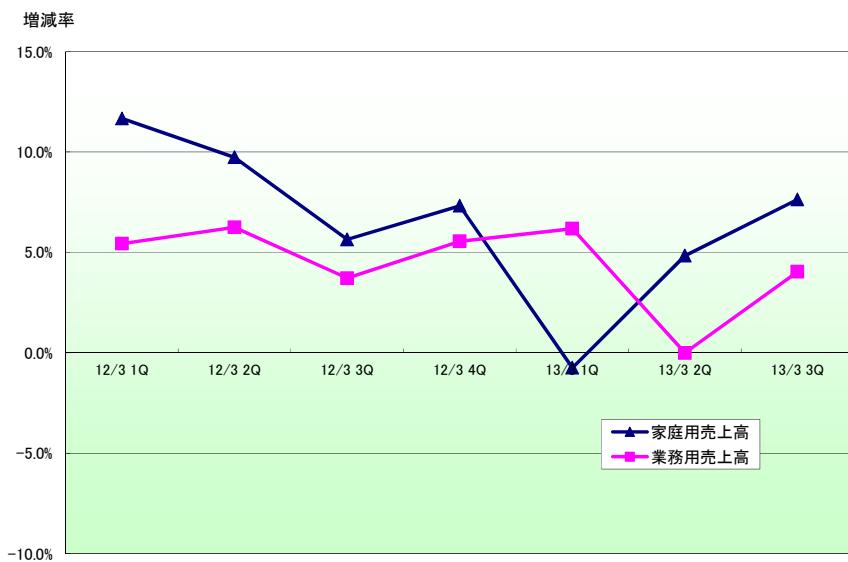
第3四半期の推移



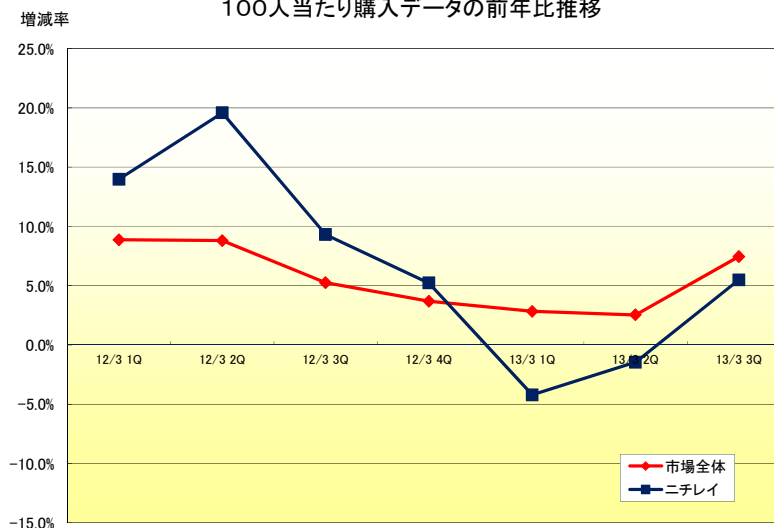
第3四半期(累計)の推移



当社の家庭用・業務用調理冷食の売上高前年比増減率推移

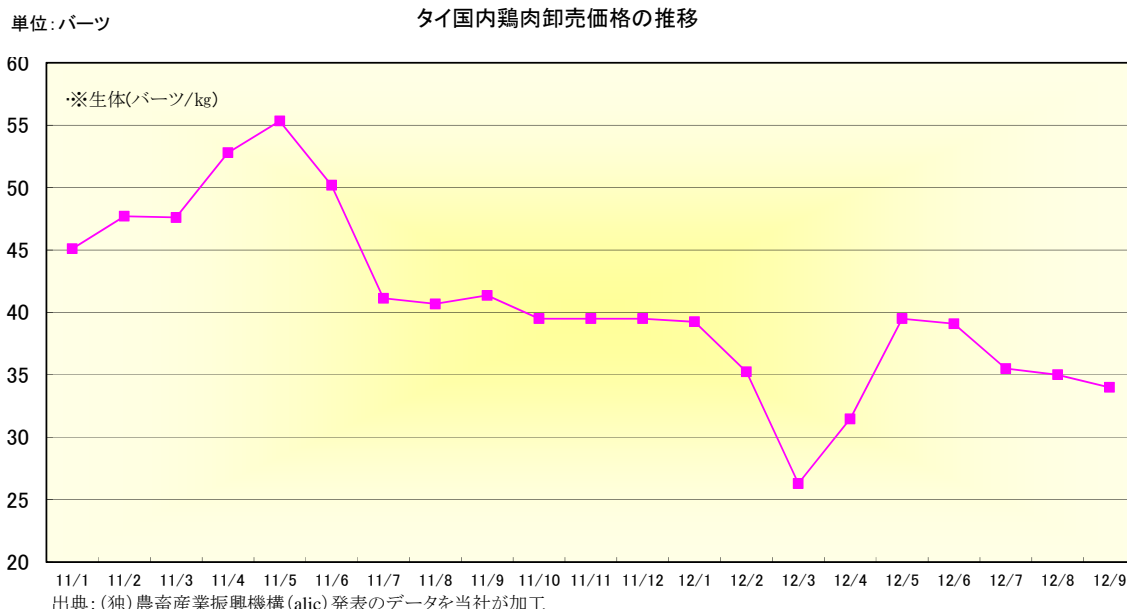


SCI-personal 家庭用調理冷凍食品
100人当たり購入データの前年比推移

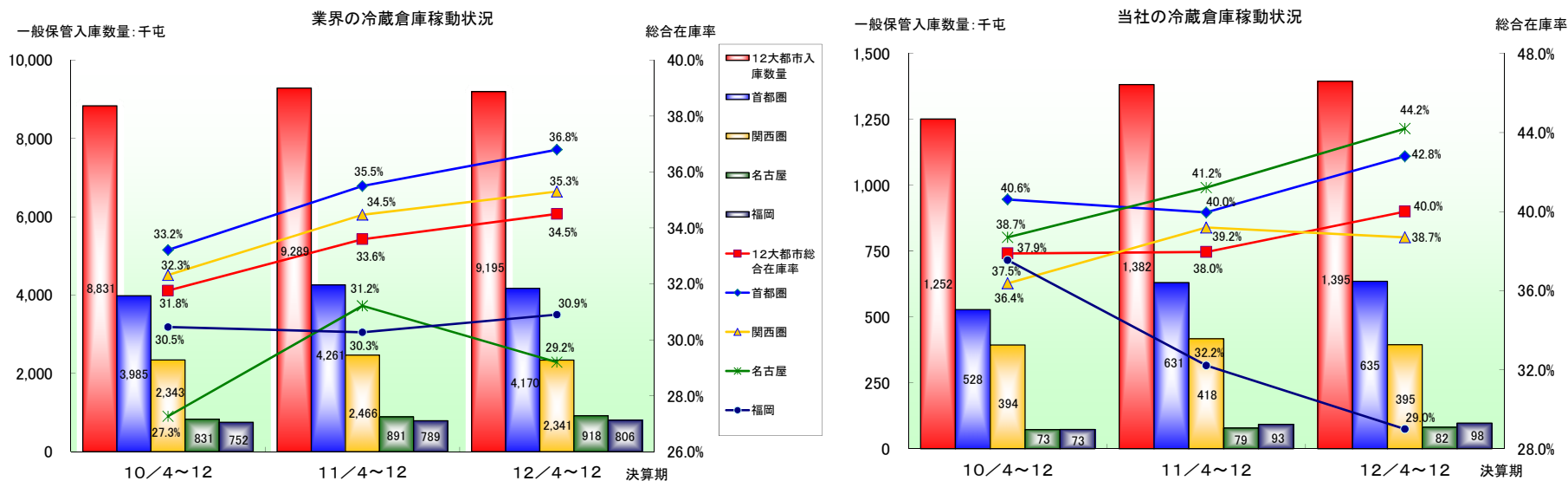


出典: インテージSCI-personal (冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート=生協店舗を除く)

【参考データ②】



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。